

中国の文化Ⅲ

日中文化交流史

第三回 朝貢から外交へ

前回の復習

現生人類は、その優れた言語能力によって高度な文明を築いた。

アジア各地から日本列島に渡り、縄文、弥生の文化を築いた人々は、遺伝的には多様な集団であったが、やがて日本語を共通言語とし、時間や空間を超えて知識を伝達・蓄積すること、独自の文化圏を形成していった。

日本列島に誕生した日本語文化圏・倭は、紀元後まもなく中国との交渉を開始し、さらに朝鮮半島との交流を通じて、儒教や仏教などの先進的な文明を取り入れていった。

近年には、日本や中国、韓国での新たな考古学的発見によって、倭とアジア各地の交流がしだいに明らかになるうとしている。

日本語文化圏・倭の拡大

〔解説〕

五世紀ごろ、倭は日本列島全体に勢力を拡大していった。そのようすは、倭王武(ワカタケル大王)が四七八年に中国南北朝時代の宋の順帝に送った上表の中に記され、それを裏付ける遺物も出土している。

國將軍號詔並聘二十年倭國王濟遣使奉獻復以為安東將軍倭國王二十八年加使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東將軍如故并除所上二十三人軍郡濟死世子興遣使貢獻世祖大明六年詔曰倭王世子興奕世載忠作藩外海稟化寧境恭修貢職新嗣邊業宜授爵號可安東將軍倭國王興死弟武自立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融秦廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道遠百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊謀處

劉不已每致稽滯以失良風雖曰進路或通或不臣亡考濟實忿寇讐壅塞天路控弦百萬義聲感激方欲大舉奄喪父兄使垂成之功不獲一簣居在諒闇不動兵甲是以偃息未捷至今欲練甲治兵申父兄之志義士虎賁文武効功白及交前亦所不顧若以帝德覆載摧此疆敵克靖方難無替前功竊自假開府儀同三司其餘咸假授以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭王荆雍州蠻獠之後也分建種落布在諸郡縣荆州置南蠻雍州置寧蠻校尉以領之世祖初罷南蠻併大府而寧蠻如故蠻民願附者一戶輸穀數斛其餘無雜調而宋民賦役嚴苦貧者不復堪命多逃亡入蠻蠻無徭役彊者又不供官稅結黨連群動有數百千人州郡力弱則起為盜賊種類稍多戶口不可知也所在多深

倭王武の上表(四七八年)

倭国王は順帝の昇明二年(四七八)、使節を派遣して上表して言った。

「わが国は辺境に封じられ、外部の藩屏となつています。父祖の代より甲冑を纏つて山川を渉り、休むことはありませんでした。東は毛人(蝦夷)五十五国、西は衆夷(熊襲、隼人など)六十六国、さらに海を渡つて北の九十五国を征服しました。」

『宋書』卷九十七倭国伝

國諸軍事安東將軍如故并除所上二十三人軍部齊死世子興遣使貢獻世祖大明六年詔曰倭王世子興與世祖忠作藩外海稟化寧境恭修貢職新嗣邊業宜校爵號可安東將軍倭國王興死弟武立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融泰廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道遠百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊謀處

劉不已每致稽滯以失良風雖曰進路或通或不臣亡考濟實忿寇警壅塞天路控弦百萬義聲感激方欲大舉奄喪父兄使垂成之功不獲一簣居在諒闇不動兵甲是以偃息未捷至今欲練甲治兵申父兄之志義士虎賁文武効功白及交前亦所不顧若以帝德覆載摧此疆敵克靖方難無替前功竊自假開府儀同三司其餘咸假授以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭王荆雍州蠻獮瓠之後也分建種落布在諸郡縣荆州置南蠻雍州置寧蠻校尉以領之世祖初罷南蠻併大府而寧蠻如故蠻民願附者一戶輸穀數斛其餘無雜調而宋民賦役嚴苦貧者不復堪命多逃亡入蠻蠻無徭役疆者又不供官稅結黨連群動有數百千人州郡力弱則起為盜賊種類稍多戶口不可知也所在多深



金錯銘鉄剣 (埼玉県稻荷山古墳出土)

狹野加多支國大王



さきたま古墳公園

ちよこたび埼玉

N稻荷山古墳出土金錯銘鉄剣（ちよこたび埼玉放送局「古代の息吹が聞こえるさきたま古墳公園」より）

倭王武の上表(四七八年)

倭国王は順帝の昇明二年(四七八)、使節を派遣して上表して言った。

「わが国は辺境に封じられ、外部の藩屏となつています。父祖の代より甲冑を纏つて山川を渉り、休むことはありませんでした。東は毛人(蝦夷)五十五国、西は衆夷(熊襲、隼人など)六十六国、さらに海を渡つて北の九十五国を征服しました。」

『宋書』卷九十七倭国伝

國諸軍事安東將軍如故并除所上二十三人軍部齊死世子興遣使貢獻世祖大明六年詔曰倭王世子興與世祖忠作藩外海稟化寧境恭修貢職新嗣邊業宜授爵號可安東將軍倭國王興死弟武立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融泰廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道遠百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊謀處

劉不已每致稽滯以失良風雖曰進路或通或不臣亡考濟實忿寇警壅塞天路控弦百萬義聲感激方欲大舉奄喪父兄使垂成之功不獲一簣居在諒闇不動兵甲是以偃息未捷至今欲練甲治兵申父兄之志義士虎賁文武効功白及交前亦所不顧若以帝德覆載摧此疆敵克靖方難無替前功竊自假開府儀同三司其餘咸假授以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭王

荆雍州蠻槃瓠之後也分建種落布在諸郡縣荆州置南蠻雍州置寧蠻校尉以領之世祖初罷南蠻併大府而寧蠻如故蠻民願附者一戶輸穀數斛其餘無雜調而宋民賦役嚴苦貧者不復堪命多逃亡入蠻蠻無徭役疆者又不供官稅結黨連群動有數百千人州郡力弱則起為盜賊種類稍多戶口不可知也所在多深

金錯銘鉄剣 (埼玉県稻荷山古墳出土)

獲加多支國大王



銀象嵌銘大刀 (熊本県江田船山古墳出土)

大野大王





NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年・第2回 任那日本府の謎」より

多支鹵大王」(ワカタケル大王)倭王武)に仕えた地方豪族の鉄剣や鉄刀が出土したことで、雄略天皇に比定される倭王武が南朝宋に送った上表にあるとおり、四世紀から五世紀にかけて倭日本語文化圏が日本列島に広く勢力を拡大していたことが明らかになった。

倭日本語文化圏の拡大

埼玉県と熊本県の古墳から「獲加

多支鹵大王」(ワカタケル大王)倭王

武)に仕えた地方豪族の鉄剣や鉄刀が

出土したことで、雄略天皇に比定さ

れる倭王武が南朝宋に送った上表に

あるとおり、四世紀から五世紀にか

けて倭日本語文化圏が日本列島に

広く勢力を拡大していたことが明ら

かになった。



倭王武が宋に上表(478年)

倭王武の上表(四七八年)

倭国王は順帝の昇明二年(四七八)、使節を派遣して上表して言った。

「わが国は辺境に封じられ、外部の藩屏となつてゐる。父祖の代より甲冑を纏つて山川を涉り、休むことはなかつた。東は毛人(蝦夷)五十五国、西は衆夷(熊襲、隼人など)六十六国、さらに海を渡つて北の九十五国を征服した」

國諸軍事安東將軍如故并除所上二十三人軍那濟死世子興遣使貢獻世祖大明六年倭王世子興亦世祖忠作濟外海稟化寧境恭修貢職新嗣邊業王世祖可安東將軍倭國王興死弟武自立自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓慕韓七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融秦廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲臣雖下愚忝胤先緒驅率所統歸崇天極道遠百濟裝治船舫而句驪無道圖欲見吞掠抄邊謀處

『宋書』卷九十七倭國伝

「海北九十五国」とは、どこを指すのでしょうか？

倭||日本語文化圏の拡大

近年、韓国南西部の栄山江(ヨンサンガン)流域で、日本固有の陵墓の形とされる前方後円墳が数多く発見された。

これにより倭王武の上表にある「海北九十五国」が、朝鮮半島を指すとの考えが強まっている。



倭王武が宋に上表(478年)





NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年・第2回 任那日本府の謎」より

アジアの新興途上国だった倭

日本列島に広く勢力を拡大し、アジアとの交流も開始した倭だったが、その文化は他の国々に大きな遅れをとっていた。

倭王武の上表から半世紀後、南朝梁の蕭繹（しょうえき、五〇五〜五五四年、のちの元帝）が朝貢に来た使節を描いた「職貢図」からは、朝鮮半島の百済と日本列島の倭との文化的な格差を見ることができるといえる。

百済國使



南朝梁「職貢図」(北宋写本 中国歴史博物館蔵)

ヤマトと倭

ヤマト：日本語を共通言語とする民族の自称。漢字の「大和」は「大倭」を改めたもの*

倭……ヤマト民族に対する漢語名称。蔑称のため、唐の則天武后の時代に「日本」と改められた

*日本では漢字への理解が深まるにつれ、地名にもよい意味をもつ漢字二文字を使うようになった(例、上毛野→上野)。

元明天皇の和銅六年(七一三年)には「好字令」という勅命も出されている。
中改御其妻以公主之号錫車騎嘉致既歸暮漢制乃治心口定住道 所出史傳呼頗自強大歷魏晉至梁歲來歸名馬昔通年遣使康石憶丘波那奉表入朝



倭國使

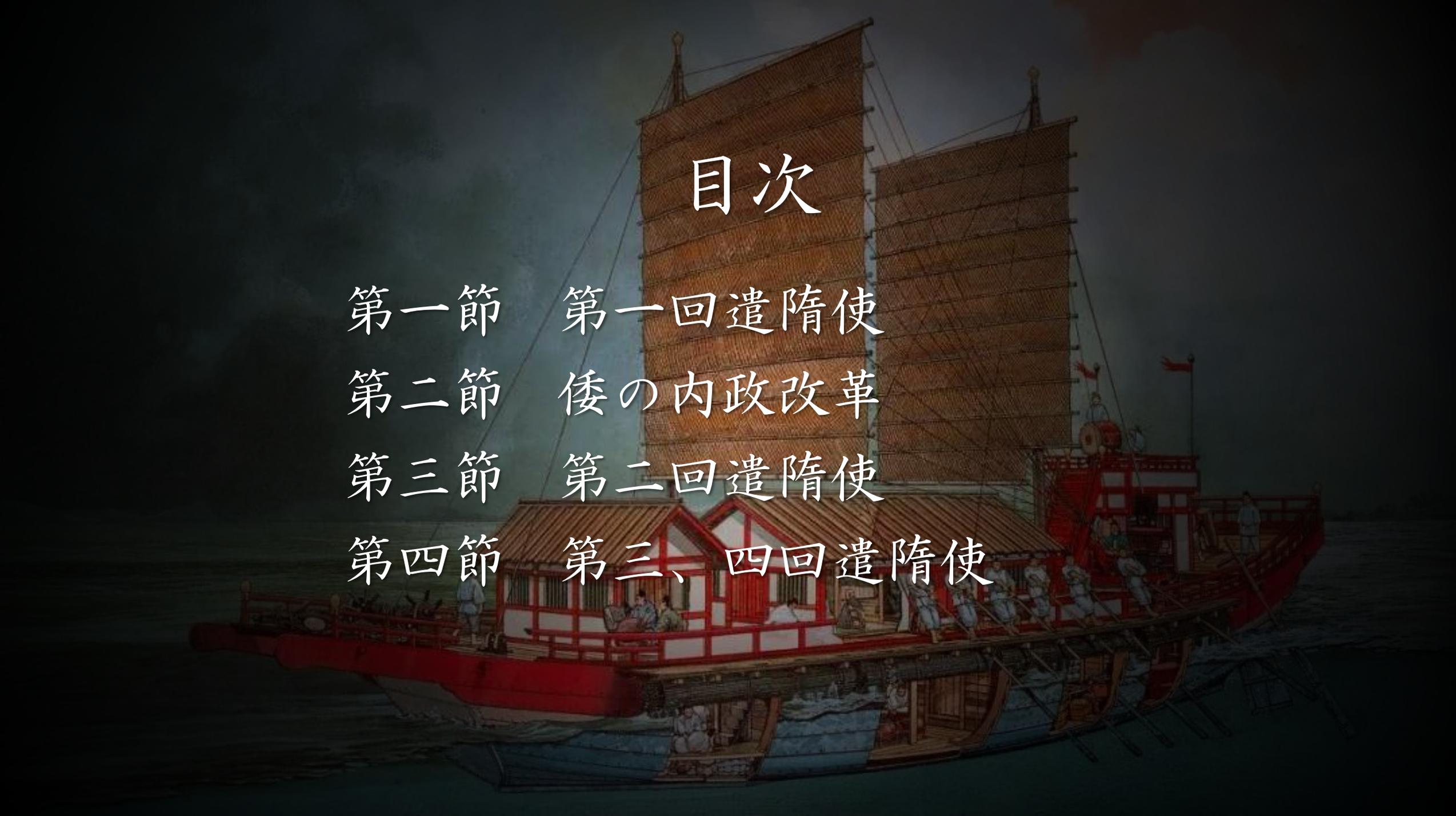
倭國在東 乃東南大海中依山島居曰帶日領海亦東南之文對其北岸之虛三十餘國了方餘里倭王所居大坂在會稽東系彼地出真珠青玉無半馬虎豹羊鷄 面文身以金飾也等 漢幅無縫且止告

南朝梁「職貢圖」(北宋写本 中国歴史博物館蔵)

一世紀にアジアの外交舞台へのデビューを果たした倭は、日本語を共通言語とする文化圏を拡大しながら、中国や朝鮮半島との外交を通じて、先進的な文化を受容していった。

一方、倭に先進的な文化を伝えたのは、国家間の交流だけではなかった。後漢末以来、約四百年に及んだ分裂と抗争の時代の中で、大陸や朝鮮半島から多くの人々が、アジアの新世界である日本列島へと渡った。

六世紀の末、隋が中国全土を統一すると、倭はこうした渡来人たちをブレインとして改革を進め、超大国・隋との間で自主独立の平和外交を展開する。



目次

- 第一節 第一回遣隋使
- 第二節 倭の内政改革
- 第三節 第二回遣隋使
- 第四節 第三、四回遣隋使

第一節 第一回遣隋使



隋の建国

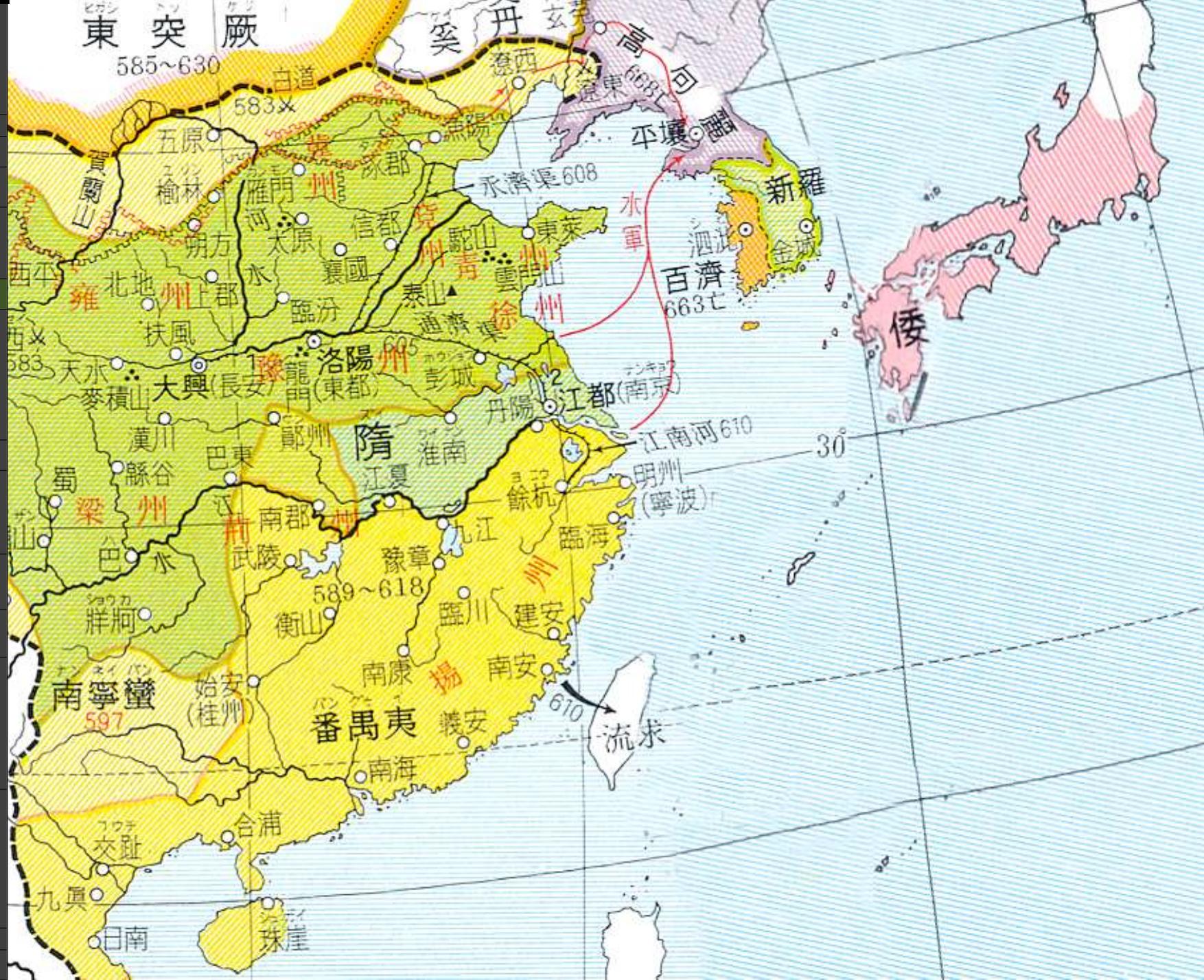
〔解説〕

六世紀末、東アジアは新たな時代を迎える。隋が三百年近く続いた南北朝分裂の時代に終止符を打ち、中国全土を統一したのである。

超大国となった隋は、中国を中心とする国際秩序（華夷秩序）の再構築に乗り出す。



0		
100	後漢 25-220	
200	魏 220-265	蜀 221-263
300	晉 265-316	
400	五胡十六国時代	東晉 317-420
500	北朝 439-589	南朝 420-589
600	隋 581-619	
700	唐 618-907	
800		
900	五代十国 907-960	
1000	遼	北宋 960-1127
1100		
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400		
1500	明 1368-1644	
1600		
1700		
1800	清 1616-1912	
1900	中華民國 1912-1949	
2000	中華人民共和國 1949-	



中国全土を統一した隋は、東アジアに新たな国際秩序を構築するため、抵抗する周辺諸国への侵攻を始める。このとき隋に抵抗し、三度にわたってその侵攻を撃退した国は？

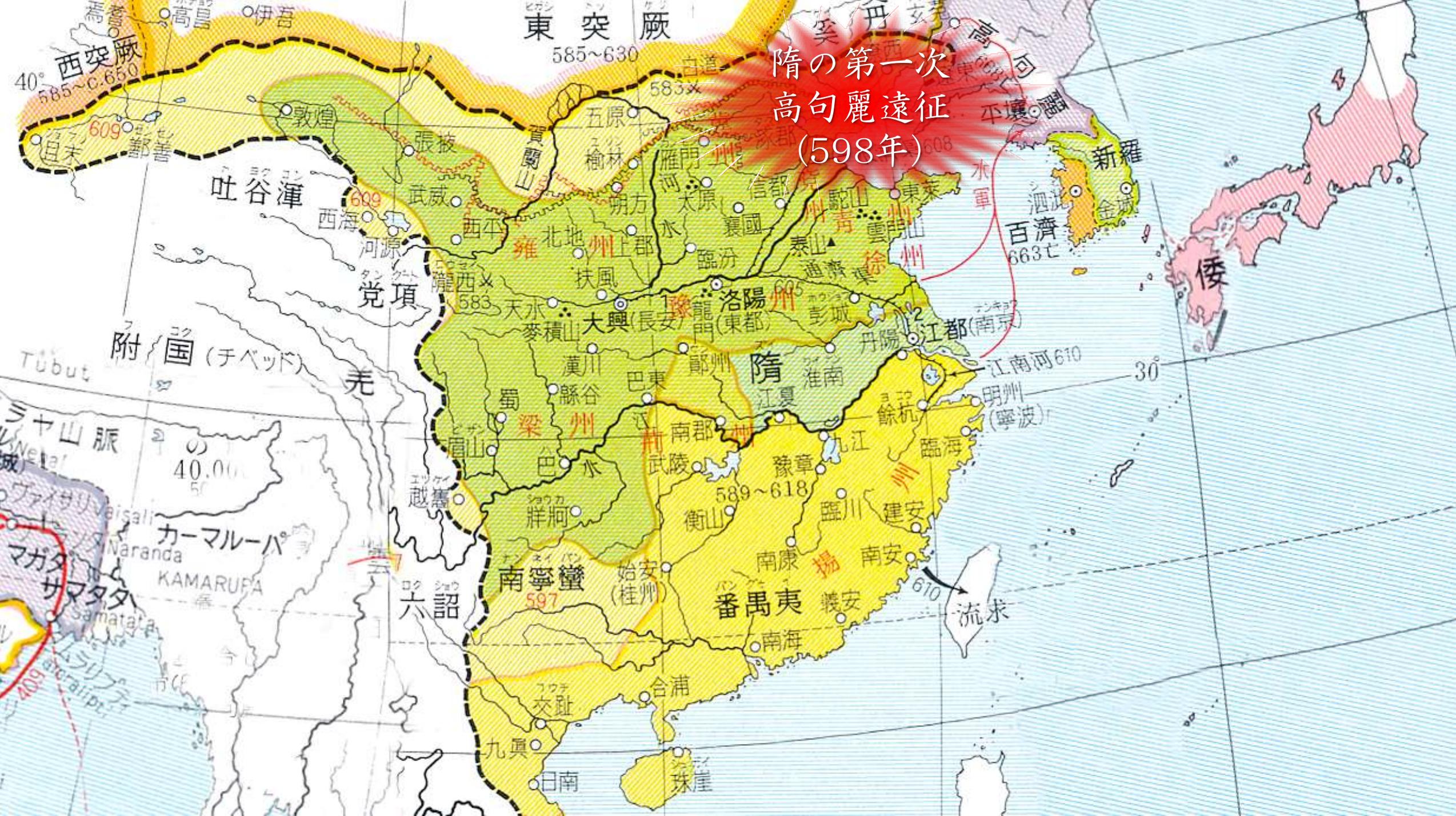
①倭

②高句麗



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・瑟聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

隋の第一次
高句麗遠征
(598年)



東突厥

585~630

西突厥
585~C.650

吐谷渾

附国 (チベット)

羌

カールルパ
KAMARUPA

六詔

南寧蠻

番禺夷

流求

百濟

新羅

倭

隋

隋の第一次
高句麗遠征
(598年)

水軍

江都(南京)

江南河610

明州(寧波)

589~618

610

高句麗

608

百濟

663

江南河610

明州(寧波)

610

589~618

585~630

585~C.650

609

609

583

583

605

589~618

610

シヤ山脈

マガタ

409

40.00

51

51

51

51

51

51

51

51

高昌

伊吾

鄯善

且末

西海

河源

党項

雍

北地

扶風

天水

麥積山

漢川

巴東

南郡

武陵

衡山

豫章

臨川

建安

高昌

伊吾

鄯善

且末

西海

河源

党項

雍

北地

扶風

天水

麥積山

漢川

巴東

南郡

武陵

衡山

豫章

臨川

建安

高昌

伊吾

鄯善

且末

西海

河源

党項

雍

北地

扶風

天水

麥積山

漢川

巴東

南郡

武陵

衡山

豫章

臨川

建安

高昌

伊吾

鄯善

且末

西海

河源

党項

雍

北地

扶風

天水

麥積山

漢川

巴東

南郡

武陵

衡山

豫章

臨川

建安

隋の第一次
高句麗遠征
(598年)

隋の第一次高句麗遠征で東アジアの緊張が高まると、倭はどのような外交政策をとったか？

① 高句麗との同盟を強化し、隋と軍事的に対抗した

② 隋に使節を送り、自主独立の平和外交を行った



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・瑟聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

第一回遣隋使について記しているのは中国側の史書だけで、日本側には記録が残っていない。それはなぜか？

① 隋が倭の使節の帰国を許さなかったため

② 隋が倭の後進性を批判したため

東突厥

585~630

奚丹玄

高句麗

608

水軍

新羅

百濟

663

倭

隋

589~618

番禺夷

流求

隋書卷八一東夷伝倭国

〔解説〕

『隋書』は唐代の初め、勅命によつて編纂された正史の一。

卷八一の東夷伝の倭国の条には、後漢から南北朝時代にかけての日中間の交流のほか、二度にわたつて派遣された遣隋使の事績が記録されている。
其布甲而還時倭國使來朝見之曰此夷邪父國人所由也帝遣武賁郎將陳稜朝請大夫張鎮州率兵自義安浮海擊之至高華嶼又東行二日至甌窰嶼又一日便至流求初稜將南方諸國人從軍有崐崙人頗解其語遣人慰諭之流求不從拒逆官軍稜擊走之進至其都頻戰皆敗焚其宮室虜其男女數千人載軍實而還自爾遂絕

倭国

倭国在百濟新羅東南水陸三千里於大海之中依山島而居魏時譯通中國三十餘國皆自稱王夷人不知里數但計以日其國境東西五月行南北三月行各至於海其地執事東高西下都於邪麻堆則魏志所謂邪馬臺者也古云去樂浪郡境及帶方郡並一



リ 8
1735
176

隋書

十六

倭の後進性への批判

「開皇二十年(六〇〇年)、倭王、姓は阿每(アメ?)、字は多利思比孤(夕リシヒコ?)、阿輩鷄弥(才才キミ?)と号す者が、隋の都・大興(現在の西安)に使節を遣わした。」

『隋書』卷八一東夷伝倭国

國言不通掠一人而返明年帝復令寬慰撫之流求不從寬取其布甲而還時倭國使來朝見之曰此夷邪父國人所由也帝遣武賁郎將陳稜朝請大夫張鎮州率兵自義安浮海擊之至高華嶼又東行二日至麗僊嶼又一日便至流求初稜將南方諸國人從軍有崐崙人頗解其語遣人慰諭之流求不從拒逆官軍稜擊走之進至其都頻戰皆敗焚其宮室虜其男女數千人載軍實而還自爾遂絕

倭國

倭國在百濟新羅東南水陸三千里於大海之中依山島而居魏時譯通中國三十餘國皆自稱王夷人不知里數但計以日其國境東西五月行南北三月行各至於海其地熱東高西下都於邪麻堆則魏志所謂邪馬臺者也古云去樂浪郡境及帶方郡並一

萬一千里在會稽之東與僭耳相近漢光武時遣使入朝自稱大
夫安帝時又遣使朝貢謂之倭奴國桓靈之間其國大亂遞相攻
伐歷年無主有女子名卑彌呼能以鬼道教眾於是國人共立爲
王有男弟佐卑彌理國其王有侍婢千人罕有見其面者唯有男
子二人給王飲食通傳言語其王有宮室樓觀城柵皆持兵守衛
爲法甚嚴自魏至于齊梁代與中國相通開皇二十年倭王姓阿
每字多利思北孤號阿輩鷄彌遣使詣關上令所司訪其風俗使
者言倭王以天爲兄以日爲弟夫未明時出聽政跣趺坐日出便
停理務云委我弟高祖曰此大無義理於是訓令改之王妻號雞
彌後宮有女六七百人名太子爲利歌彌多弗利無城郭內官有
十二等一曰大德次小德次大仁次小仁次大義次小義次大禮
次小禮次大智次小智次大信次小信員無定數有軍尼一百二

倭の後進性への批判

「隋の高祖(文帝)は係官にその風俗を訪ねさせた。(倭の)使者は『倭王は天を兄とし、日を弟としております。夜が明ける前は出て政を聞き、胡座しておりますが、日が出れば政務を止め弟に任せようと申します』と答えた。

高祖は「それは不合理すぎる」と取
言つて、これを改めるよう諭した。

武貴郎將陳稜奉詔大破倭軍於海擊之至高華嶼又東行二日至麗僊嶼又『隋書』卷八一東夷伝倭国從軍有崐崙人頗解其語遣人慰諭之流求不從拒逆官軍稜擊走之進至其都頻戰皆敗焚其宮室虜其男女數千人載軍實而還自爾遂絶

倭国

倭国在百濟新羅東南水陸三千里於大海之中依山島而居魏時譯通中國三十餘國皆自稱王夷人不知里數但計以日其國境東西五月行南北三月行各至於海其地執東高西下都於邪麻堆則魏志所謂邪馬臺者也古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬一千里在會稽之東與僭耳相近漢光武時遣使入朝自稱大天安帝時又遣使朝貢謂之倭奴國桓靈之間其國大亂遞相攻伐歷年無主有女子名卑彌呼能以鬼道教眾於是國人共立爲王有男弟佐卑彌理國其王有侍婢千人罕有見其面者唯有男子二人給王飲食通傳言語其王有宮室樓觀城柵皆持兵守衛爲法甚嚴自魏至于齊梁代與中國相通開皇二十年倭王姓阿者言倭王以天爲兄以日爲弟天未明時出聽政跣趺坐日出便停理務云委我弟高祖曰此大無義理於是訓令改之王妻號雞彌後宮有女六七百人名太子爲利歌彌多弗利無城郭内官有十二等一曰大德次小德次大仁次小仁次大義次小義次大禮次小禮次大智次小智次大信次小信員無定數有軍尼一百二

日本書紀卷二二推古天皇紀

〔解説〕

『日本書紀』は『古事記』の編纂から八年後の七二〇年に完成した日本最初の編年体史書。

卷二二の推古天皇紀には、三回にわたって派遣された遣隋使の事績が記録されている。しかし中国側の史書に見られる推古八年(六〇〇年)の第一回遣隋使は記録されていない。

頭白雉一候

八年春二月新羅與任那相攻天皇欲救任那是歲命境部臣為大將軍以穗積臣為副將軍並關名則將萬餘衆為任那擊新羅於是直指新

羅於是直指新羅以泛海往之乃到于新羅攻五城而拔於是新羅王惶之舉白旗到于將軍之麾下而立割多多羅素奈羅弗知鬼委陀而迦羅阿羅々六城以請服時將軍共議曰新羅知罪服之強擊不可則奏上爰天皇更遣難波吉師神於新羅復遣難波吉土木蓮子於任那並檢按事狀爰新羅任那王二國遣使貢調仍奏表之曰天上有神地有天皇除是二神何亦

失敗におわった第一次遣隋使

〔解説〕

隋は、政治・軍事の中央集権化、律令制による法治体制、科挙による平等な人材登用など、一連の改革によって中国を再統一し、世界の最先進国となっていた。

そんな隋にとって、いまだ政治と宗教が未分化な倭は、まともな外交交渉の相手ではなかった。

このため第一次遣隋使の派遣は、失敗に終わり、『日本書紀』などの日本側の史書には記録されなかった。



隋文帝((唐)閻立本『歴代帝王図卷』)

第二節 倭の内政改革

東アジアに誕生した超大国・隋との間で外交交渉を担当していたのは誰か？

①菅原道真

②厩戸王（聖徳太子）





隋文帝(唐閻立本歷代帝王圖卷)

当時、隋との外交交渉に当たって
いたのは、推古天皇の摂政であった
厩戸王(聖徳太子)であった。



伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が19歳で皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡



隋文帝(唐閻立本歷代帝王図卷)

- ① 中国や朝鮮に倣って改革を行った
- ② 隋との交渉をやめ軍備を拡張した



隋から後進性を指摘され、第一次遣隋使よる外交交渉に失敗した厩戸王(聖徳太子)は、その後どうしたか？



云聖徳太子二王子像(皇室御物)

西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が19歳で皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

冠位十二階(官僚制度)

「(推古天皇の十一年)十二月、戊辰朔壬申の日、初めて冠位制度を定めた。

大徳、小徳、大仁、小仁、大礼、小礼、大信、小信、大義、小義、大智、小智のあわせて十二階である」

『日本書紀』卷二二推古天皇紀

大夫曰我有尊佛像謂得是像以奉拜則奉造河勝進曰臣并之便受佛像因以造蜂罍寺是月皇太子請于天皇以作大楯及鞞勢此云又繪于旗幟十二月戊辰朔壬申始行冠位大徳小徳大仁小仁大禮小禮大信小信大義小義大智小智并十二階並以當色純縫之頂撮捻如囊而著縁焉唯元日著髻華髻華此云于時

十二年春正月戊戌朔始賜冠位於諸臣各有差斐四月丙寅朔戊辰皇太子親肇作憲法十七條一曰以和爲貴無忤爲宗人皆有黨亦少達者是以或不順君父乍違于隣里然上和下睦諧於論事則事理自通何事不成二曰薦敬三寶三寶者佛法僧也則四生之終歸万國之極宗何世何人非貴是法人鮮尤惡能教從之其不歸三寶何以直枉三曰承認必謹君則天

西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が19歳で皇太子(聖徳太子)となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	高句麗から僧・慧慈、百済から僧・慧聡が来朝し聖徳太子のブレインとなる
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百済の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

憲法十七條

〔推古天皇の〕十二年春正月、戊戌朔、はじめて諸臣に冠位を賜った。各々差あり。

夏四月、丙寅朔戊辰の日、皇太子（聖徳太子）が、みずから初めて憲法十七條を作った。

申遷于小墾田宮十一月己亥朔皇太子請諸大夫曰我有尊佛像誰得是像以恭拜時秦造

河勝進曰臣并之便受佛像因以造蜂罍寺是

月皇太子請于天皇以作大橋及鞞勢此云又

繪于旗幟十二月戊辰朔壬申始行冠位大德

小德大仁小仁大禮小禮大信小信大義小義

大智小智并十二階並以當色純縫之頂撮捻

如囊而著縁焉唯元日著髻華髻華此云

于時

十二年春正月戊戌朔始賜冠位於諸臣各有

差其四月丙寅朔戊辰皇太子親肇作憲法十

七條一曰以和爲貴無忤爲宗人皆有黨亦少

達者是以或不順君父乍違于隣里然上和下

睦諧於論事則事理自通何事不成二曰篤敬

三寶三寶者佛法僧也則四生之終歸万國之

極宗何世何人非貴是法人鮮尤惡能教從之

其不歸三寶何以直枉三曰承認必謹君則天



厩戸皇子(聖徳太子)は、超大国・隋との間で自主独立の平和外交を進めるため、どのような人材をブレインとしたか？

① 皇族や古くから倭王家に仕える豪族たち

② 朝鮮半島から来た僧侶たち

西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が19歳で皇太子となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	厩戸皇子、21歳の時、来朝した高句麗僧・慧慈、百濟僧・慧聡をブレインとし、東アジアの国際情勢について学ぶ
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百濟の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

厩戸皇子(聖徳太子)のブレイイン

「推古天皇の三年(五月、戊午朔丁卯の日、高麗(高句麗のこと)の僧・慧慈が帰化し、皇太子(聖徳太子)はこれに師事した。」

この年、百済の慧聡も来朝した。この二人の僧は仏教を広め、ともに三宝の棟梁となった。」

即是謂寺焉

『日本書紀』卷二二推古天皇紀

三年夏四月沈水漂著於淡路嶋其大一圍嶋人不知沈水以交薪燒於竈其烟氣遠薰則異以獻之五月戊午朔丁卯高麗僧惠慈歸化則皇太子帥之是歲百濟慧聡來之此兩僧弘演佛教並為三寶之棟梁秋七月將車等至自筑

紫

四年冬十一月法興寺造普則以大臣男善徳臣孫寺司是日惠慈惠聡二僧始住於法興寺五年夏四月丁丑朔百濟王遣王子阿佐朝貢冬十一月癸酉朔甲子遣吉士磐金於新羅六年夏四月難波吉士磐金至自新羅而獻鵲二侯乃俾養於難波杜因以巢枝而產之秋八月己亥朔新羅貢孔雀一侯冬十月戊戌朔





第三節 第二次遣隋使



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が19歳で皇太子となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	厩戸皇子、21歳の時、来朝した高句麗僧・慧慈、百濟僧・慧聡をブレインとし、東アジアの国際情勢について学ぶ
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百濟の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

第二次遣隋使

〔解説〕

中国や朝鮮半島の先進的な制度に倣い、国内の制度改革を断交した厩戸皇子（聖徳太子）は、隋に再度遣隋使を派遣した。

この第二次遣隋使は、当時の国際情勢を分析した上で派遣されたものであった。それは『隋書』に記録された外交記録からもうかがうことができる。

日得百餘頭俗無盤俎藉以榭葉食用手舖之性質直有雅風女多男少婚嫁不取同姓男女相悅者卽爲婚婦入夫家必先跨犬乃與夫相見婦人不姪妬死者歛以棺槨親賓就屍歌舞妻子兄弟以白布製服貴人三年殯於外庶人卜日而瘞及瘞置屍船上陸地牽之或以小輦有阿蘇山其石無故火起接天者俗以爲異因行禱祭有如意寶珠其色青大如雞卵夜則有光云魚眼精也新羅百濟皆以倭爲大國多珍物並敬仰之恒通使往來大業三年其王多利思北孤遣使朝貢使者曰聞海西菩薩天子重興佛法故遣朝拜兼沙門數十人來學佛法其國書曰日出處天子致

隋書八十一

十一

書日沒處天子無恙云云帝覽之不悅謂鴻臚卿曰蠻夷書有無禮者勿復以聞明年上遣文林郎斐清使於倭國度百濟行至竹島南望舩羅國經都斯麻國回在大海中又東至一支國又至竹斯國又東至秦王國其人同於華夏以爲夷洲疑不能明也又經十餘國達於海岸自竹斯國以東皆附庸於倭倭王遣小德阿鞞臺從數百人設儀仗鳴鼓角來迎後十日又遣大禮哥多毗從二百餘騎郊勞既至彼都其王與清相見大悅曰我聞海西有大隋禮義之國故遣朝貢我夷人僻在海隅不聞禮義是以稽留境內不卽相見今故清道飾館以待大使冀聞大國惟新之化清答曰皇帝德並二儀澤流四海以王慕化故遣行人來此宣諭既而引清就館其後清遣人謂其王曰朝命既達請卽戒塗於是設宴享以遣清復令使者隨清來貢方物此後遂絕

第二次遣隋使

「大業三年（六〇七年）、その王・多利思比孤が、使いを遣わして朝貢した。使者は言った。

『海の西の菩薩天子が仏法を再興されたと聞きましたので、朝貢の使節を遣わすとともに、僧侶数十人を同行させ、仏法を学ばせたいと思います』」

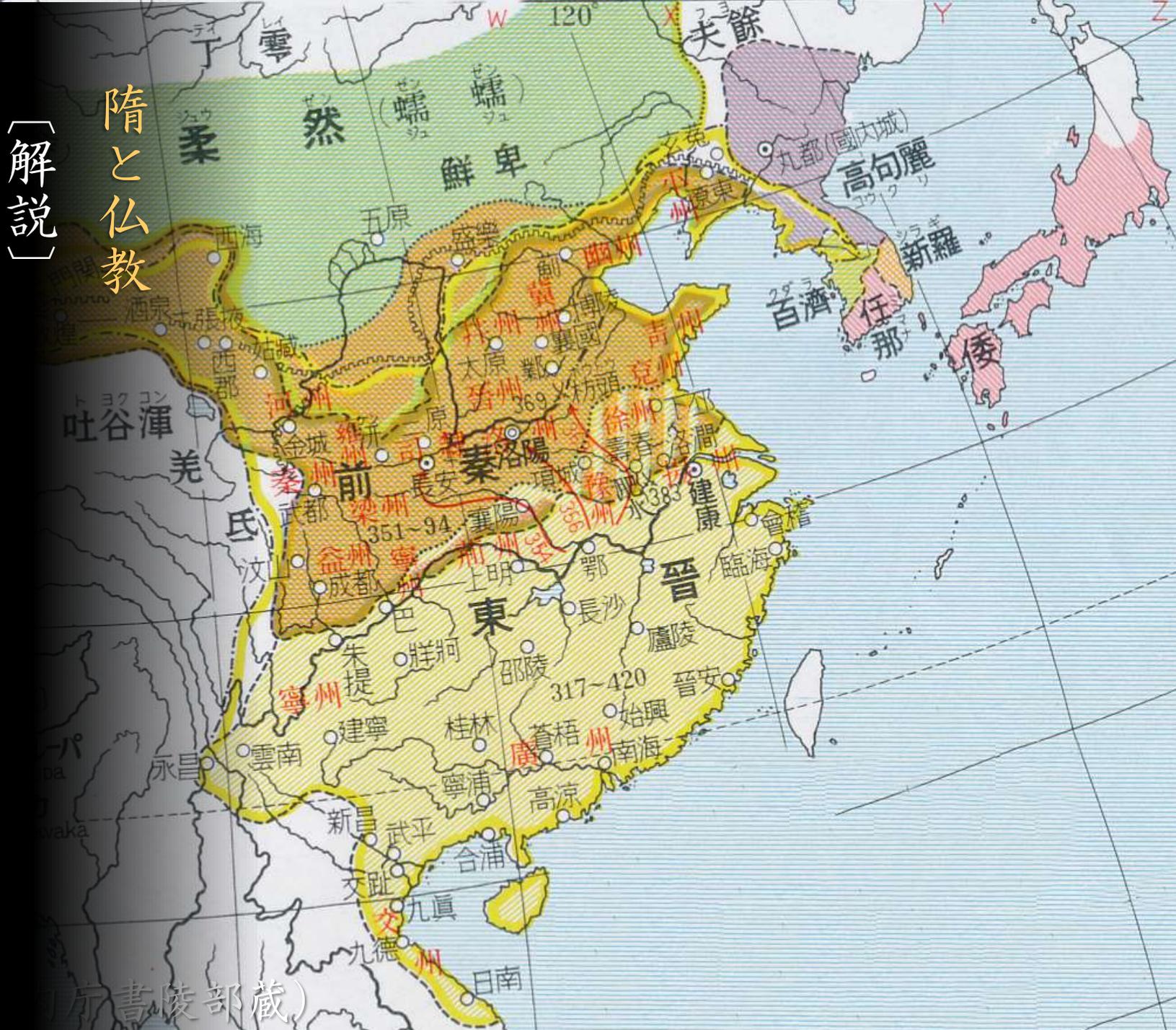
隋書卷八一東夷伝倭国

暖草木冬青土地膏腴水多陸少以小環挂鴈鷄項令入水捕魚日得百餘頭俗無盤俎藉以櫛葉食用手舖之性質直有雅風女多男少婚嫁不取同姓男女相悅者卽爲婚婦入夫家必先跨犬乃與夫相見婦人不姪妬死者歛以棺槨親賓就屍歌舞妻子兄弟以白布製服貴人三年殯於外庶人卜日而瘞及瘞置屍船上陸地牽之或以小輦有阿蘇山其石無故火起接天者俗以爲異因行禱祭有如意寶珠其色青大如雞卵夜則有光云魚眼精也新羅百濟皆以倭爲大國多珍物並敬仰之恒通使往來大業三年其王多利思比孤遣使朝貢使者曰聞海西菩薩天子重興佛法故遣朝拜兼沙門數十人來學佛法其國書曰日出處天子致

隋書卷八一

十一

書日沒處天子無恙云云帝覽之不悅謂鴻臚卿曰蠻夷書有無禮者勿復以聞明年上遣文林郎斐清使於倭國度百濟行至竹島南望舩羅國經都斯麻國回在大海中又東至一支國又至竹斯國又東至秦王國其人同於華夏以爲夷洲疑不能明也又經十餘國達於海岸自竹斯國以東皆附庸於倭倭王遣小德阿鞞臺從數百人設儀仗鳴鼓角來迎後十日又遣大禮哥多毗從二百餘騎郊勞旣至彼都其王與清相見大悅曰我聞海西有大隋禮義之國故遣朝貢我夷人僻在海隅不聞禮義是以稽留境內不卽相見今故清道飾館以待大使冀聞大國惟新之化清答曰皇帝德並二儀澤流四海以王慕化故遣行人來此宣諭旣而引清就館其後清遣人謂其王曰朝命旣達請卽戒塗於是設宴享以遣清復令使者隨清來貢方物此後遂絕



隋と仏教

〔解説〕

南北朝時代、華北を支配した北朝の諸民族は、高度な文明を持つ漢民族に対抗するため、西域から僧侶を招いて仏教經典の翻訳を行い、仏教を新たな統治のイデオロギーとした。北朝から起こった隋や唐は、この政策を継承したため、隋唐時代、中国は仏教の黄金時代を迎えた。

第二次遣隋使

その国書には、こう書かれていた。
「日出ずるところの天子が日没するところの天子に国書を送ります。つがなくお過ごしでしようか……」
煬帝はこれ読むと気分を害し、鴻臚卿(外交担当の大臣)に「野蛮人の国書には無礼なところがある。もう報告する必要はない」と言った。

隋書卷八一東夷伝倭国

暖草木冬青土地膏腴水多陸少以小環挂鴈鷓項令入水捕魚日得百餘頭俗無盤俎藉以櫛葉食用手舖之性質直有雅風女多男少婚嫁不取同姓男女相悅者卽爲婚婦入夫家必先跨犬乃與夫相見婦人不姪妬死者歛以棺槨親賓就屍歌舞妻子兄弟以白布製服貴人三年殯於外庶人卜日而瘞及瘞置屍船上陸地牽之或以小輦有阿蘇山其石無故火起接天者俗以爲異因行禱祭有如意寶珠其色青大如雞卵夜則有光云魚眼精也新羅百濟皆以倭爲大國多珍物並敬仰之恒通使往來大業三年其王多利思北孤遣使朝貢使者曰聞海西菩薩天子重興佛法故遣朝拜兼沙門數十人來學佛法其國書曰日出處天子致

隋書卷八一

十一

書日沒處天子無恙云云帝覽之不悅謂鴻臚卿曰蠻夷書有無禮者勿復以聞明年上遣文林郎斐清使於倭國度百濟行至竹島南望舩羅國經都斯麻國回在大海中又東至一支國又至竹斯國又東至秦王國其人同於華夏以爲夷洲疑不能明也又經十餘國達於海岸自竹斯國以東皆附庸於倭倭王遣小德阿鞞臺從數百人設儀仗鳴鼓角來迎後十日又遣大禮哥多毗從二百餘騎郊勞既至彼都其王與清相見大悅曰我聞海西有大隋禮義之國故遣朝貢我夷人僻在海隅不聞禮義是以稽留境內不卽相見今故清道飾館以待大使冀聞大國惟新之化清答曰皇帝德並二儀澤流四海以王慕化故遣行人來此宣諭既而引清就館其後清遣人謂其王曰朝命既達請卽戒塗於是設宴享以遣清復令使者隨清來貢方物此後遂絕



隋煬帝(唐閻立本歷代帝王図卷)

②倭の王が自らを「天子」と称したから

①隋を「日没するところ」と表現したから

隋の煬帝はなぜ倭が送った国書に気分を害したのか？



伝聖徳太子二王子像(皇室御物)



隋煬帝(唐閻立本歷代帝王図卷)

高校では、隋の煬帝が倭からの国書に気分を害したのは、中国のことを「日没するところ」と書いたからだと習いましたが・・・



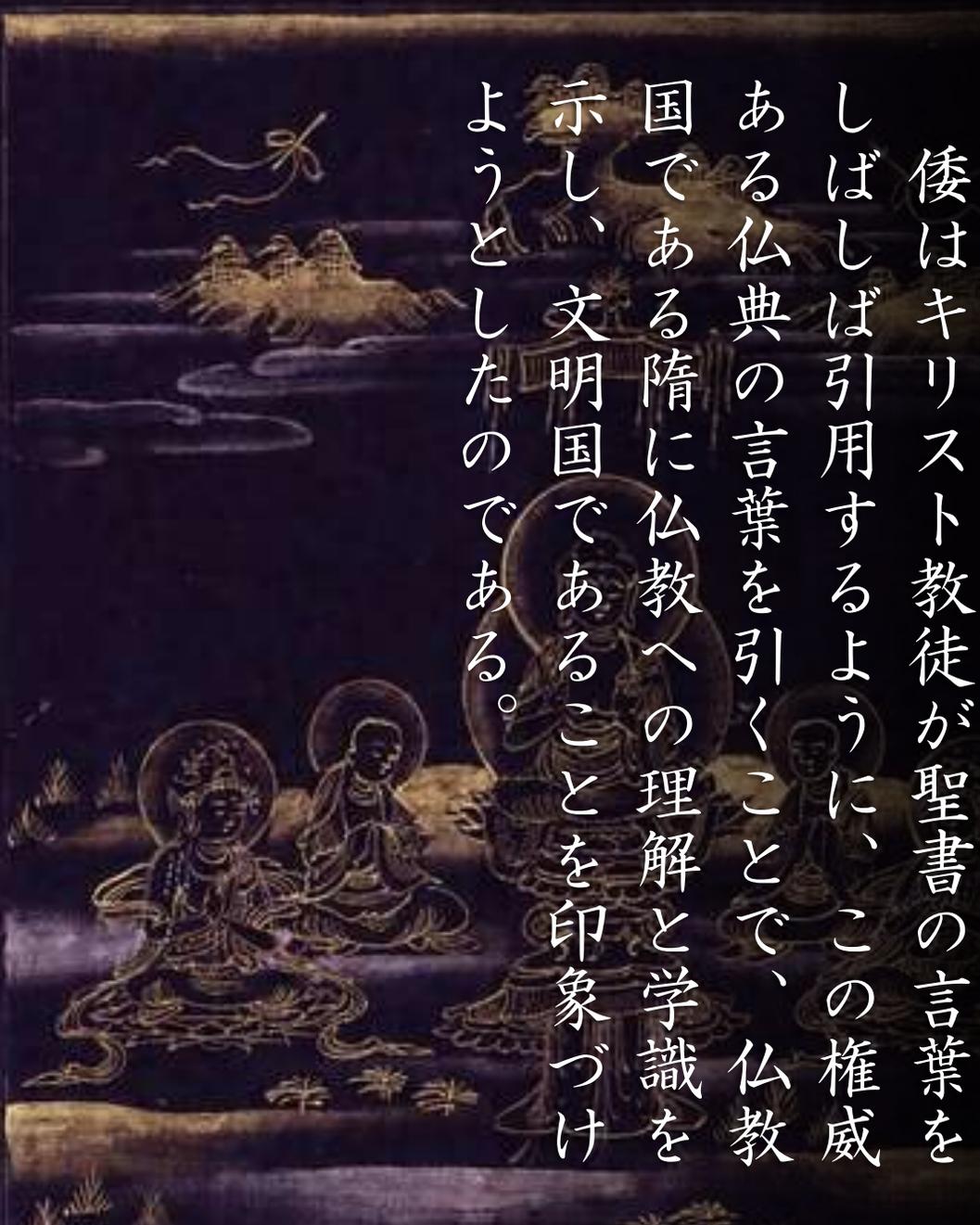
伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

「日没之處」は仏教的教養の表現

「日出處」「日没處」は『大智度論』の中の「東」「西」を表す言葉。

『大智度論』はインドのナーガールジュナ(龍樹)が著した仏教の解説書。五世紀初めに鳩摩羅什が漢訳した。

倭はキリスト教徒が聖書の言葉をしばしば引用するように、この権威ある仏典の言葉を引くことで、仏教国である隋に仏教への理解と学識を示し、文明国であることを印象づけようとしたのである。



大智度論釋初品中舍利弗目犍第十三

十一

告舍利弗問曰般若波羅蜜是菩薩摩訶薩

法佛何以故告舍利弗而不告菩薩答曰舍

利弗於一切弟子中智慧寂第一如佛偈說

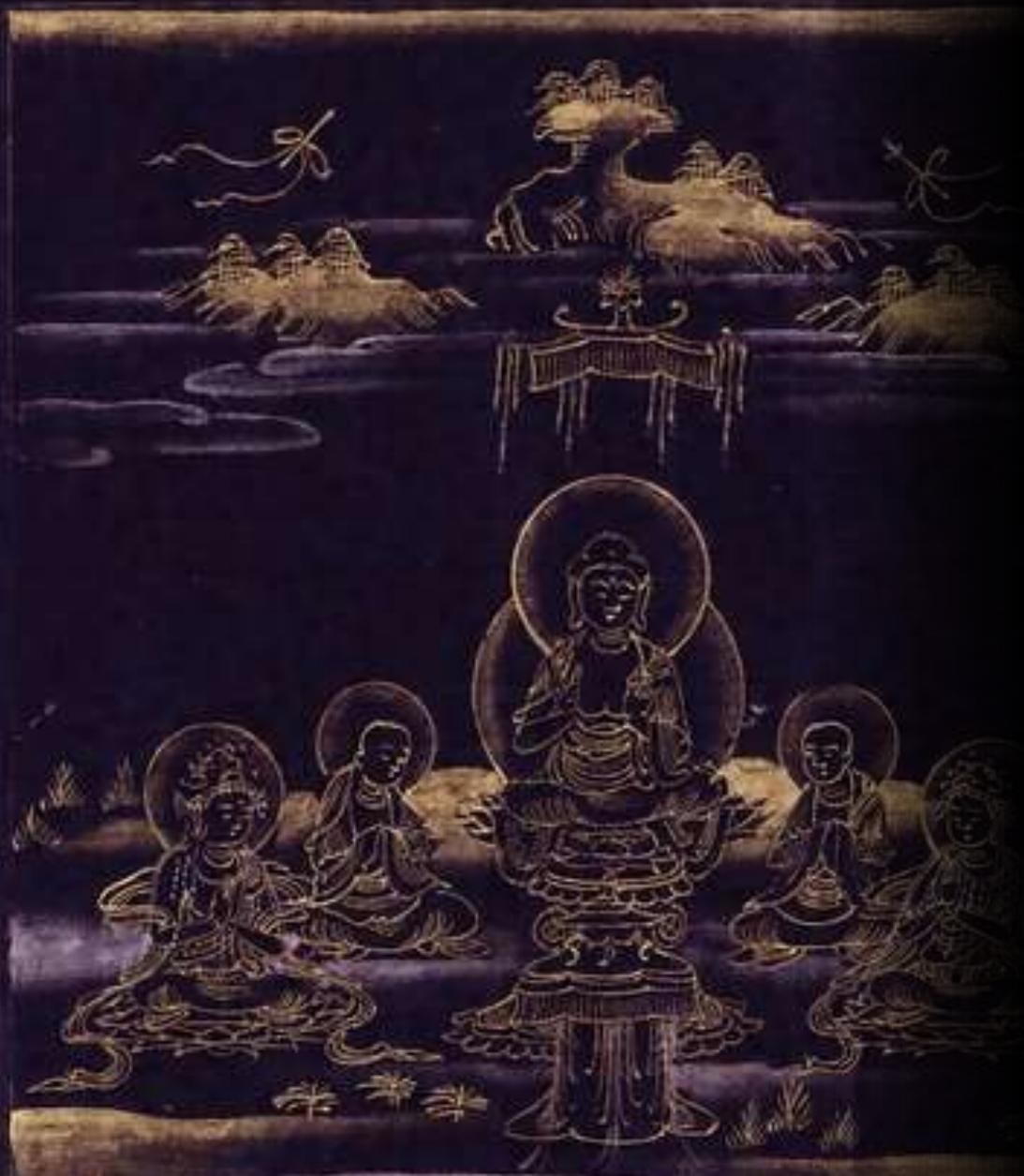
一切衆生智唯除佛世尊欲比舍利弗智慧及多聞

於十六分中猶尚不及一

「日没之處」は仏教經典の中の言葉

「日出處是東方、日沒處是西方、日行處是南方、日不行處是北方。」

『大智度論』卷第十



大智度論釋初品中舍利弗目犍第十三

十一

告舍利弗問曰般若波羅蜜是菩薩摩訶薩

法佛何以故告舍利弗而不告菩薩答曰舍

利弗於一切弟子中智慧寂第一如佛偈說

一切衆生智唯除佛世尊欲比舍利弗智慧及多聞

於十六分中猶尚不及一

倭はどのような勝算があつて、対
等な外交交渉を求めたのか？

① 隋が再び高句麗遠征を行うと予測
し、倭との友好関係を求めると考
えたから(平和的外交)

② 外交交渉が失敗した場合、他国と
ともに軍事力で威嚇すればよいと
考えたから(集団的自衛)



西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が19歳で皇太子となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	厩戸皇子、21歳の時、来朝した高句麗僧・慧慈、百濟僧・慧聡をブレインとし、東アジアの国際情勢について学ぶ
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百濟の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が使人・裴世清を日本に派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡



隋煬帝(唐閻立本歷代帝王圖卷)

② 失敗した

① 成功した



隋との対等な外交交渉は成功した
のか？



伝聖徳太子二王子像(皇室御物)

西暦	中国	日本	出来事
574年		敏達天皇3年	厩戸皇子(聖徳太子)生。父は用明天皇、母は穴穂部間人皇后。幼名は厩戸豊聡耳(うまやどのとよとみみ)皇子
589年	隋文帝開皇 9年	崇峻天皇2年	隋が南朝陳を滅ぼし、中国を再統一
593年	13年	推古天皇元年	厩戸皇子が19歳で皇太子となり、朝政を摂る
595年	15年	3年	厩戸皇子、21歳の時、来朝した高句麗僧・慧慈、百濟僧・慧聡をブレインとし、東アジアの国際情勢について学ぶ
598年	18年	6年	隋が第一次高句麗遠征を行う
600年	20年	8年	倭が第一次遣隋使を派遣 *中国側の史料にのみ記録が見られる
603年	仁寿 3年	11年	倭が高句麗や百濟の官位制度に倣い、冠位十二階を制定
604年	4年	12年	倭が中国北朝の先例に倣い、憲法十七条を制定
607年	隋煬帝大業 3年	15年	倭が第二次遣隋使を派遣
608年	4年	16年	隋が倭に使人・裴世清を派遣 倭が第三次遣隋使(送使)を派遣
612年	8年	20年	隋が第二次高句麗遠征を行う
613年	9年	21年	隋が第三次高句麗遠征を行う
614年	10年	22年	隋が第四次高句麗遠征を行う 倭が第四次遣隋使を派遣
618年	唐高祖武徳元年	26年	煬帝が殺され、隋が滅亡

第四節 第三、四次遣隋使



第三次遣隋使と留学生

〔解説〕

第二次遣隋使の外交は成功し、隋からは裴世清らの使節が派遣された。倭は隋の使節を送るため、第三次遣隋使を派遣するとともに、八名の学生を隋に留学させた。

倭が第一次遣隋使を派遣する(600年)

倭が第二次遣隋使を派遣する(607年)

隋が倭に使人・裴世清を派遣(608年)

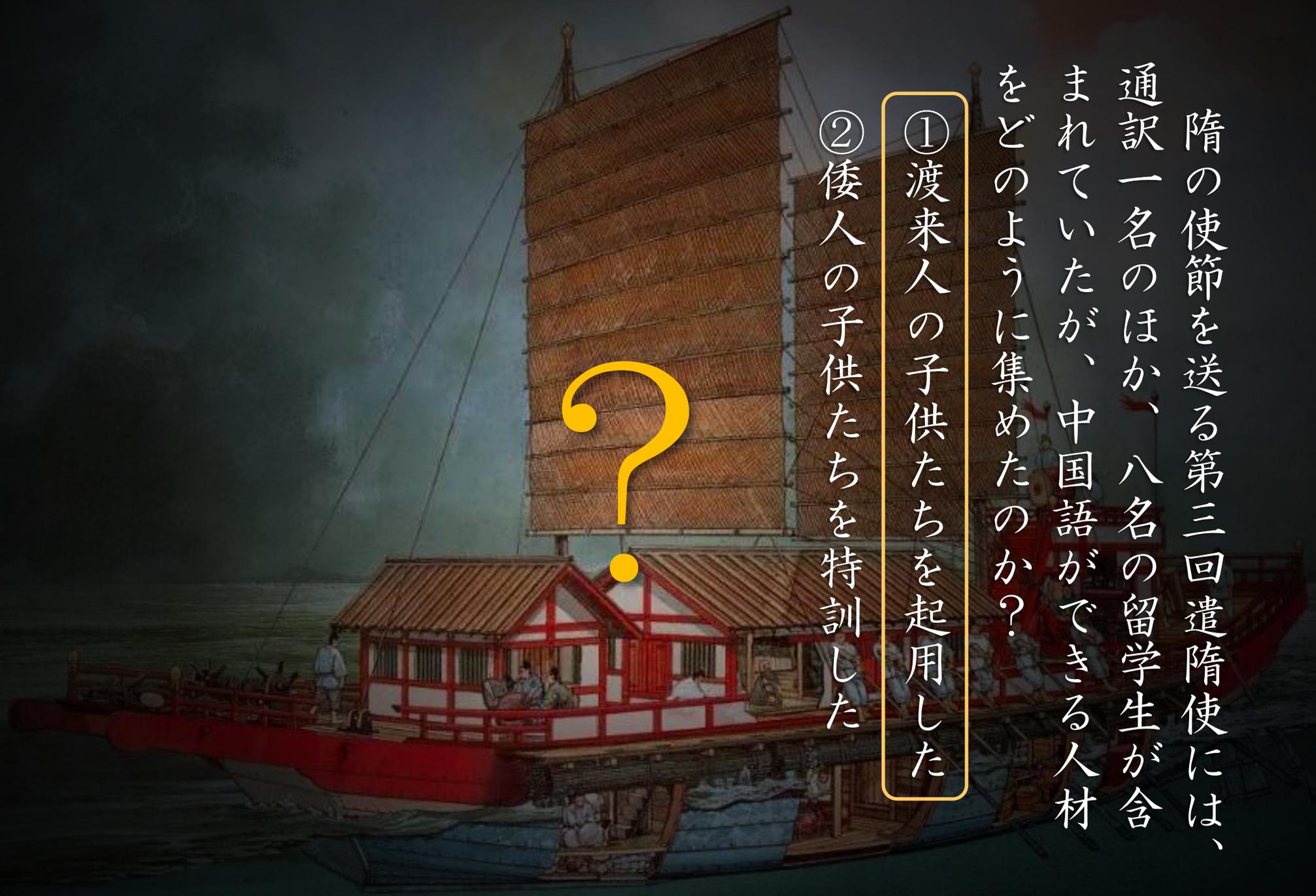
倭が第三次遣隋使を派遣する(608年)



隋の使節を送る第三回遣隋使には、
通訳一名のほか、八名の留学生が含まれていたが、中国語ができる人材をどのように集めたのか？

① 渡来人の子供たちを起用した

② 倭人の子供たちを特訓した



隋に派遣された最初の留学生たち

「この時、唐国に遣わされし学生は、倭漢直福因(やまとのあやのあたふくいん) 奈羅訖語恵明(ならのおさえみょう)

高向漢人玄理(たかむくのあやひとくろまる)

新漢人大国(いまきのあやひとおおくに)

学問僧は、

新漢人日文(いまきのあやひとちもん)

南洲漢人請安(みなみぶちのあやひとしょうあん)

志賀漢人恵隱(しがのあやひとえいん)

漢人広濟(あやひとこうさい)

など并せて八人なり。

日本書紀卷二二推古天皇十六年

* 漢人(あやひと)とは、古代に渡来した漢族系中国人のこと。大陸の学芸・技術をもつて倭に仕える各種の専門職の小氏となつていた。

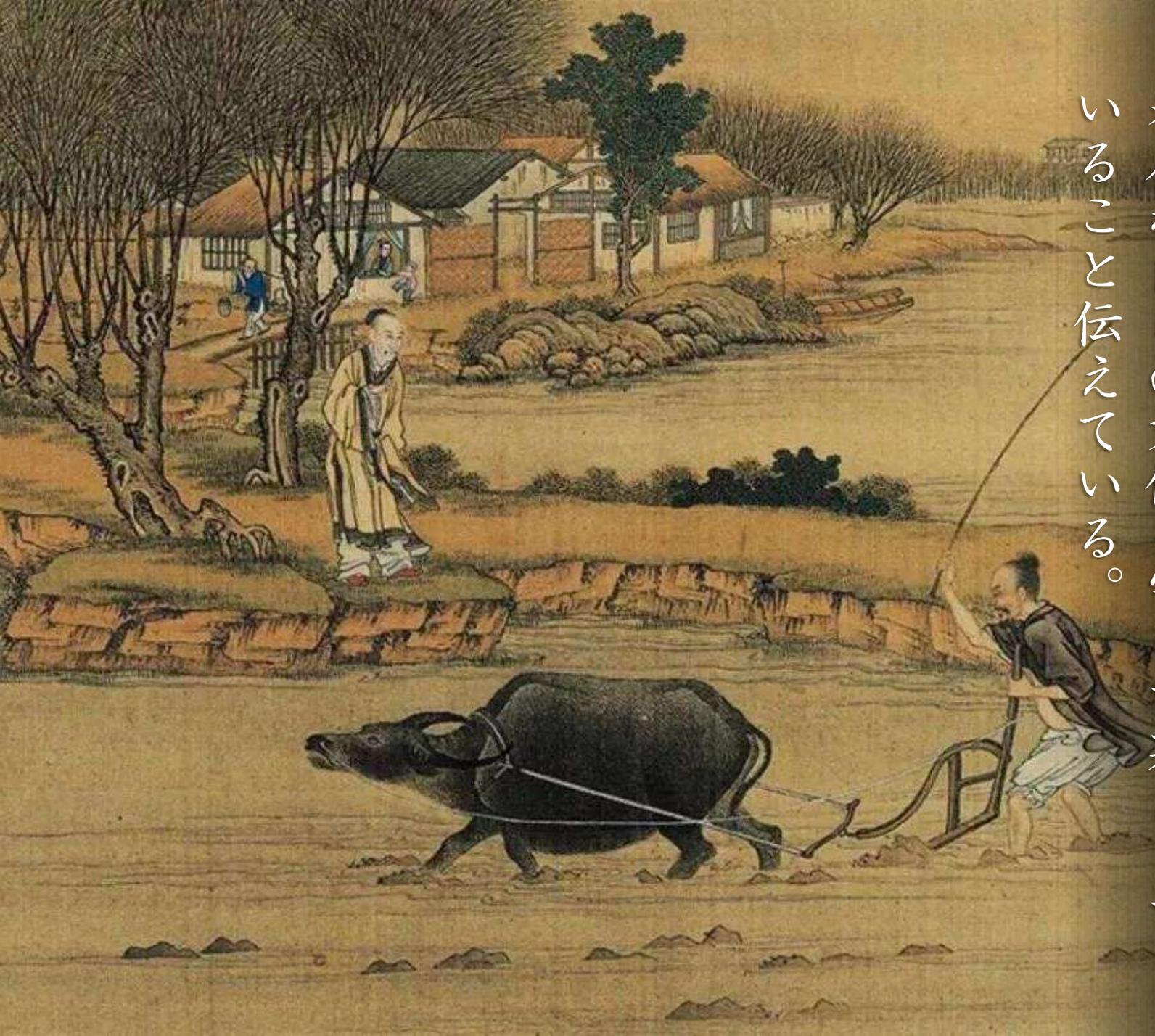
使吉士雄成爲小使福利爲通事副于唐客而遣之爰天皇聘唐帝其辞曰東天皇敬白西皇帝使人鴻臚寺掌客裴世清等至又憶方解季秋薄冷尊何如想清念此即如常今遣大禮蕪因高大禮乎那利等往謹白不具是時遣於唐國學生倭漢直福因奈羅訖語恵明高向漢人玄理新漢人夫國學問僧新漢人日文南洲漢人請安志賀漢人恵隱漢人廣濟等并八人也

隋の使節が見た倭の「秦王国」

〔解説〕

中国や朝鮮半島の先進的な知識や技術を持つ渡来人たちは、それぞれの特技を活かし、倭の国づくりに貢献していた。

第二次遣隋使の後、隋から派遣された使節は、倭の国の中で漢族系渡来人が自らの文化を守って暮らしていること伝えている。



0	後漢 25-220		
100			
200	魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
300	晋 265-316		
400	五胡十六国時代	東晋 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐 618-907		
800			
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400			
1500	明 1368-1644		
1600			
1700			
1800	清 1616-1912		
1900			
2000	中華民國 1912-1949 中華人民共和國 1949-		



隋が倭に使人・裴世清を派遣(608年)

隋の使節が見た倭の「秦王国」

(第二次遣隋使の)翌年、隋の煬帝は文林郎・裴世清を倭国に派遣した。

百済を通って竹島に至り、南に済州島を見ながら、対馬を通り、再び大海に出て東に向かうと壱岐島に至り、さらに筑紫に至った。

さらに東に行くと秦王国に至る。

その人々は中国と同じである。かの夷州^①かとも思われるが不明である。

隋書卷八一東夷伝倭国

【注釈】

①夷州：亶州の誤りか。亶州は、秦の始皇帝の命を受けた徐福が、不老長寿の薬を求め、数千の童男童女を従えて渡ったと伝えられる島。

因行禱祭有如意寶珠其色青大如雞卵夜則有光云魚眼精也新羅百濟皆以倭爲大國多珍物並敬仰之恒通使往來大業三年其王多利思北孤遣使朝貢使者曰聞海西菩薩天子重興佛法故遣朝拜兼沙門數十人來學佛法其國書曰日出處天子致

書日沒處天子無恙云云帝覽之不悅謂鴻臚卿曰蠻夷書有無

禮者勿復以聞明年上遣文林郎裴世清使於倭國度百濟行至竹

島南望舩羅國經都斯麻國回在大海中又東至一支國又至竹

斯國又東至秦王国其人同於華夏以爲夷州疑不能明也又經

十餘國達於海岸自竹斯國以東皆附庸於倭倭王遣小德阿鞞

臺從數百人設儀仗鳴鼓角來迎後十日又遣大禮哥多毗從二

百餘騎郊勞既至彼都其王與清相見大悅曰我聞海西有大隋禮義之國故遣朝貢我夷人僻在海隅不聞禮義是以稽留境內不即相見今故清道飾館以待大使冀聞大國惟新之化清答曰

皇帝德並二儀澤流四海以王慕化故遣行人來此宣諭既而引清就館其後清遣人謂其王曰朝命既達請即戒塗於是設宴享以遣清復令使者隨清來貢方物此後遂絕



対馬

壱岐島

济州島

筑紫

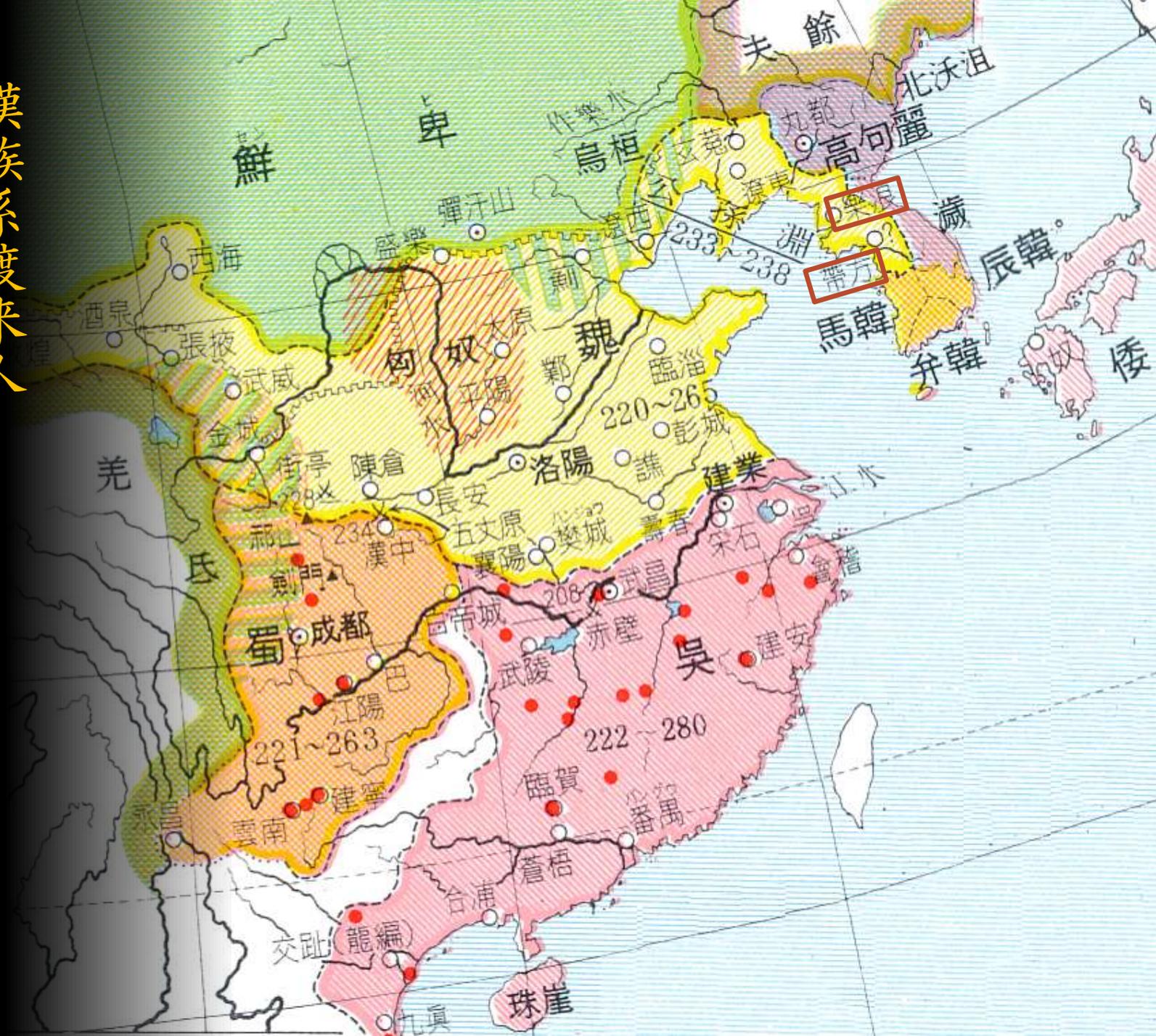
隋の使節・裴世清一行の訪日ルート

漢族系渡来人

〔解説〕

こうした漢族系中国人は、なぜ倭に渡来したのだろうか。

漢代以来、朝鮮半島の西北部には、漢民族が支配する楽浪郡、带方郡などが置かれていた。



0	後漢 25-220
100	
200	魏 220-265
300	蜀 221-263
400	吳 222-280
500	晋 265-316
600	五胡十六国時代
700	東晋 317-420
800	北朝 439-589
900	南朝 420-589
1000	隋 581-619
1100	唐 618-907
1200	五代十国 907-960
1300	遼
1400	北宋 960-1127
1500	金 1115-1234
1600	南宋 1127-1279
1700	元 1271-1368
1800	明 1368-1644
1900	清 1616-1912
2000	中華民國 1912-1949
	中華人民共和國 1949-

邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る(239年)





漢族系渡来人

〔解説〕

ところが三国を統一した西晋が、三一年に異民族の侵攻によって滅亡すると、陸の孤島となった楽浪郡は高句麗に、帯方郡は韓・濊諸族によって次々と滅ぼされていった。

楽浪郡、帯方郡に暮らしていた中国系住民は漢民族は、戦乱を逃れて移動を開始し、その一部は朝鮮半島南部を経て、日本列島へと渡った。

利(達等の孫)などの人材が輩出した。
隆寺の釈迦三尊像を建立した鞍作止
隋使の通訳を務めた鞍作福利や、法
鞍作部からは第二次と第三次の遣
ぐり)として、倭に仕えた。
作部という渡来人技術集団の村主(す
司馬達等という人物がいる。彼は鞍
漢族系渡来人の一人に、

〔解説〕

漢族系渡来人

こうした漢族系渡来人の一人に、



第二次遣隋使(『日本書紀』では第一次)

「(推古天皇の十五年) 秋七月戊申朔庚戌、大禮小野臣妹子を大唐*に遣わし、**鞍作福利**を通訳とした。」

『日本書紀』卷二二推古天皇十五年

*大唐・隋を指す。『日本書紀』では、中国を一般に「唐」と呼んでいる。

天皇請皇太子令講勝經三日說竟之是歲皇太子亦講法華經於聖本宮天皇大喜之播麻國水田百町施于皇太子因以納于班鳩寺十五年春二月庚辰朔定壬生部戌子詔曰朕

聞之曩者我皇祖天皇等率世也踞天踏地敦禮神祇周祠山川幽通乾坤是以陰陽開和造化共調今當朕世祭祀神祇豈有怠乎故羣臣爲竭心宜并神祇甲午皇太子及大臣率百寮以祭并神祇秋七月戊申朔庚戌大禮小野臣妹子遣於大唐以鞍作福利爲通事是歲冬於倭國作高市池藤原池肩里池菅原池山背國堀大溝於粟隈且河内國作戶新池依網池亦

第三次遣隋使(送使)

「九月辛巳、隋使・裴世清が任務を終えて帰国することになった。そこで再び小野妹子を大使とし、吉士雄成(きしのおなり)を小使とし、(鞍作)福利を通訳として、隋使の随行として派遣した。」

『日本書紀』卷二二推古天皇十六年

置於大門前机_上而奏之事畢而退焉是時皇子諸王諸臣悉以金髻華著頭亦衣服皆用錦紫繡織及五色綾羅_{一云服色皆用冠色}丙辰饗唐客等於朝九月辛未朔乙亥饗客等於難波大郡辛巳唐客裴世清罷歸則復以小野妹子_臣為大

日本書紀卷二二

使吉士雄成為小使福利為通事副于唐客而遣之爰天皇聘唐帝其辭曰東天皇敬白西皇帝使人鴻臚寺掌客裴世清等至久憶方解季秋薄冷尊何如想清念此即如常今遣大禮藕因高_大禮乎那利等往謹白不具是時遣於唐國學生倭漢直福因奈羅譯語惠明高向漢人玄理新漢人火國學問僧新漢人日文南淵漢人請安志賀漢人惠隱漢人廣濟等并八人也



NHK E

NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年・第3回 仏教伝来」より



隋煬帝(唐閻立本歷代帝王図卷)

② いない

① いる

遣隋使を派遣したのは、当時、国政と外交を担っていた若き厩戸皇子(聖徳太子)だったが、彼を支えた先進的な知識や技術を持つ渡来人の子孫はいまも日本にいるのか？



云聖徳太子二王子像(皇室御物)



NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年 第3回 仏教伝来」より

新興途上国の倭を支えた渡来人たち

六世紀以前の倭は、南朝梁の「職貢図」に描かれたように、東アジアの途上国に過ぎなかった。

その倭の発展を支えたのが、大陸や朝鮮半島から渡来した人々が伝えた先進的な文化や技術であった。

西域花出石駝馬列有車... 珠玑... 寶玉... 不... 珍交易用金銀幣... 禮以金帛... 叙... 馬... 年... 等... 以四尺馬為... 羣... 五... 為... 蓋... 此... 婦... 夫... 第... 把... 手... 旬... 度... 國... 東... 方... 五... 千... 里... 產... 區... 正... 方... 里... 極... 處... 經... 門... 國... 南... 方... 里... 有... 入... 婆... 羅... 門... 國... 北... 方... 里... 屏... 沉... 墻... 區... ノ... 東... 二... 年... 月... 日... 至... 安... 馬... 越... 年... 表... 獻... 解... 牙



百濟國使



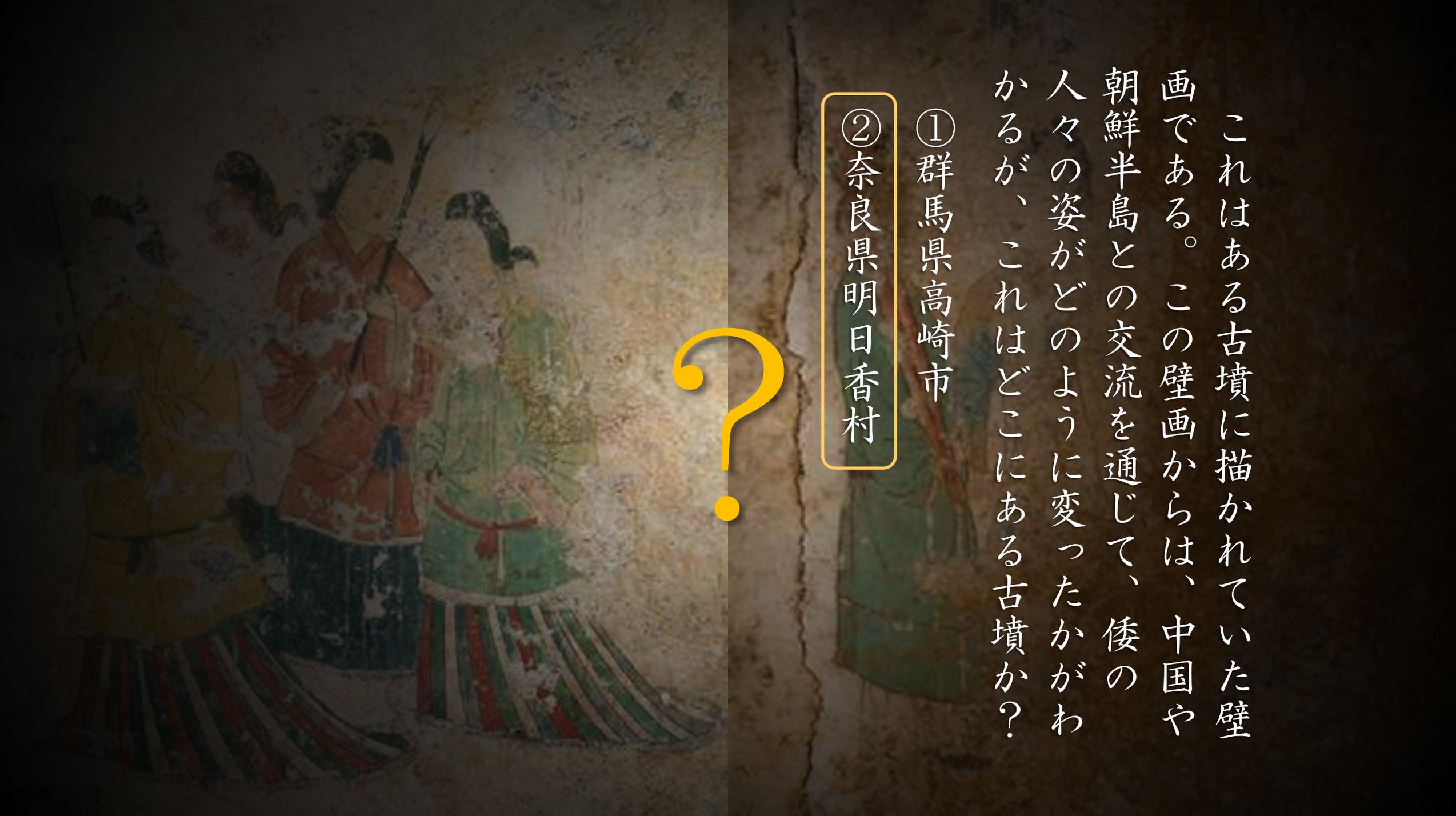
倭國使

南朝梁「職貢図」(北宋写本 中国歴史博物館蔵)

これはある古墳に描かれていた壁画である。この壁画からは、中国や朝鮮半島との交流を通じて、倭の人々の姿がどのように変わったかがわかるが、これはどこにある古墳か？

① 群馬県高崎市

② 奈良県明日香村





高松塚古墳壁画(7~8世紀)

古代氏族の三〇%を占めた渡来人

倭の国には、どのくらいの渡来人がいたのだろうか。

八一五年、嵯峨天皇の命により編纂された京・畿内の古代氏族のリスト『新撰姓氏録(しんせんしやうじろく)』には、一一八二の氏族が記載されているが、このうち渡来系の氏族は三六二氏と全体の約三〇%を占めている。

新撰姓氏録卷第二十一
右京諸蕃上

起大秦公宿祿盡統紫史參拾伍氏

漢

大秦公宿祿

出自秦始皇帝三世孫孝武王也

功滿王帝仲彦天皇八年來朝男融通王

一云弓 譽言田天王十四年來降百姓歸化獻

金銀玉帛等物大鷦鷯 天皇御世

御世以百二十七縣秦氏分置諸郡即使

養蠶織絹貢之天皇詔曰秦王所獻絲綿

縮帛朕服用柔軟溫暖如次登呂志秦公酒

大泊瀬幼武天皇御世絲綿絹帛未女

積如岳天皇嘉之賜號曰禹都萬俣

ルーツに新説 金沢大・鳥取大など研究チーム

現代日本人の祖先 古墳時代に誕生？

金沢市で見つかった約1500年前の古墳時代の人の骨のDNA解析から、縄文人や弥生人にはなく、現代日本人に見られる東アジア人特有の遺伝的な特徴が見つかった。日本人のルーツは、土着の縄文人と大陸から渡来した弥生人の混血説が有力だが、さらに大陸からの渡来が進んだ古墳時代になって古墳人が登場したことで、現代につながる祖先集団が初めて誕生したことを示唆している。

遺伝的特徴、ほぼ一致

金沢大や鳥取大などの国際研究チームが18日、米科学誌サイエンス・アドバンスに発表する。研究チームは、約9千年前の縄文人や約1500年前の古墳人など計12体のDNAを解読。すでに解読済みの弥生人2体のデータなどと比較した。親から子に遺伝情報が受け継がれる際に生じるわずかな違いの痕跡から、どの集団が遺伝的に近いのかを調べた。

その結果、弥生人は、中国東北部の遼河流域など北東アジアで多く見られる遺伝的な特徴を持ち、縄文人と混血していることも確認できた。一方、古墳人は、弥生人が持っていない東アジア人に多く見られる特徴を持っていた。さらに、現代日本人と遺伝的な特徴がほぼ一致することも判明した。

大陸からの渡来人の大規模

現代日本人の成り立ち

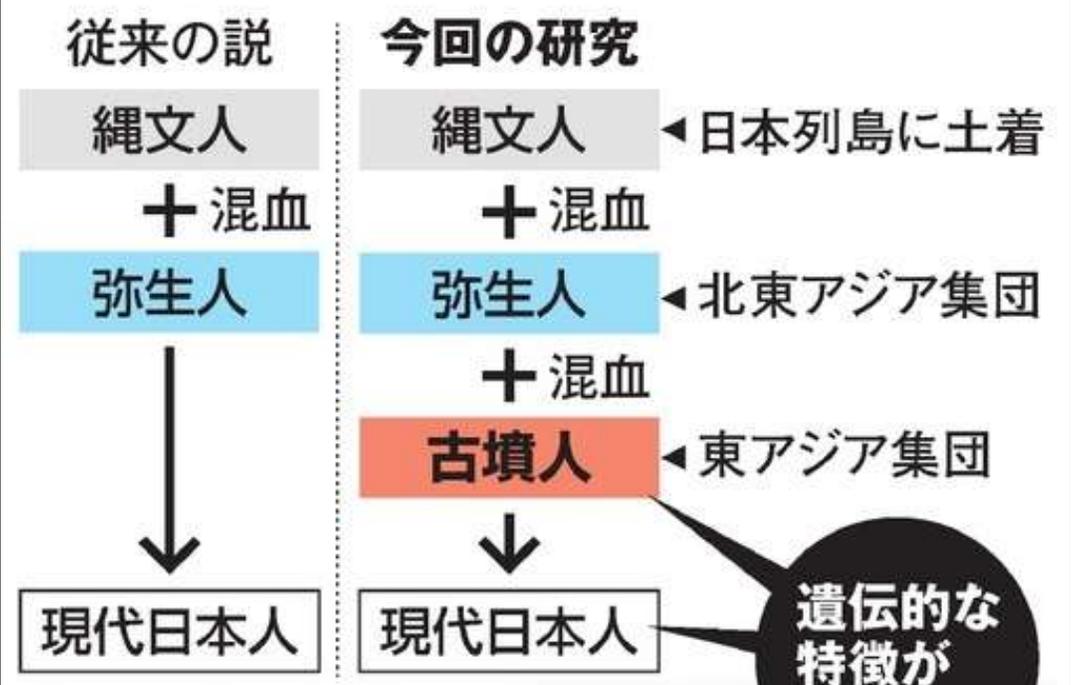


現代日本人の形成は、古墳時代？



復元された古墳時代の人
(群馬県金井東裏遺跡)

現代日本人の成り立ち



遺伝的な特徴がほぼ同じ



現代日本人の形成は、古墳時代?



古墳時代の人の頭蓋骨



岩出横穴墓(金沢市)



似てるかな？



復元された古墳時代の人(群馬県金井東裏遺跡)

中国の俳優 李永健さん

まとめ

西晋の滅亡後、中国の北部が異民族に支配されると、朝鮮半島にあった楽浪郡や帯方郡は次々と滅ぼされていった。そこに暮らしていた漢族系住民の一部は、新天地を求めて日本列島へと渡った。

六世紀の末、隋が中国全土を統一し、東アジアの緊張が高まると、倭は高句麗や百済の僧や、漢族系渡来人たちをブレインとして改革を進め、超大国・隋との間で自主独立の平和外交を実現した。

参考文献

- 石原道博編訳『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝―中国正史日本伝①』（岩波文庫、一九五一年）
- 吉田孝『日本の誕生』（岩波新書、一九九七年）
- 上田正昭『渡来の古代史』（角川書店、二〇一三年）
- 平野邦雄『帰化人と古代国家』（吉川弘文館）

映像資料

- NHK ETV特集「日本と朝鮮の二〇〇〇年・第二回 任那日本府の謎」
- NHK ETV特集「日本と朝鮮の二〇〇〇年・第三回 仏教伝来」